

浮魚礁漁場モニタリング調査事業

金田 佳久

平成 7 年 3 月に徳島県海部郡沖に設置した浮魚礁（鋼製の人工浮体：直径 8m）の生産効果を把握するために平成 10 年度に引き続き利用状況をモニタリングした。この調査は県単独浮魚礁漁場モニタリング調査事業に基づき実施した。

材料と方法

平成 11 年 4 月から平成 12 年 3 月までの間、海部郡の漁協の曳縄釣り漁船 4 隻およびカツオ一本釣り漁船 1 隻に操業日ごとの漁場、魚種ごとの銘柄別漁獲量及び他船の操業状況（漁協ごとの操業隻数あるいは操業船の船名）の記録を依頼した。

漁獲量及び漁獲金額は、標本船が浮魚礁で操業した日および時間帯以外には、他船は浮魚礁で操業しなかったという仮定の下に推計した。実際の推計に当たっては、標本船が浮魚礁へ出漁し日の他船の操業状況記録を基に浮魚礁での操業船（以下、「浮魚礁利用船」とする。）を特定し、漁協の水揚げ資料（一部、漁獲管理情報処理システムで送信されたデータ）から特定された浮魚礁利用船の水揚げを積算し、推計漁獲量および推計漁獲金額とした。ただし、他船の操業状況の欄に漁協ごとの操業隻数しか記入がない場合は、該当する漁協で当日にカツオ、クロマグロ幼魚、キハダ幼魚、メバチ、ビンナガおよびシイラ（以下、「カツオ等」とする。）の何れかを漁獲した漁船の漁獲量および漁獲金額の総和を浮魚礁利用船の隻数で案分し、それを浮魚礁での推計漁獲量及び推計漁獲金額とした。

こうして得られた推計漁獲量と推計漁獲金額を標本漁協全体のカツオ等の漁獲と比較するために標本漁協の水揚げ量調査も併せて行った。

結 果

1. 標本漁協の漁獲量および漁獲金額

カツオの漁獲量は 173.9 トン、漁獲金額は 104,393 千円で、平年（1995～1998 年度の平均値、以下同じ）のそれぞれ 234%、260%であった。漁獲は 4 月から 6 月および翌年 3 月の春期のカツオ北上期にまとまって漁獲された。また、10 月および 11 月にも例年と比べてまとまった漁獲がみられた。

クロマグロ幼魚の漁獲量は 24.7 トン、漁獲金額は 30,675 千円で、平年のそれぞれ 84%、94%であった。7 月からクロマグロ幼魚の漁獲が始まり、10 月から 11 月に漁獲は急減したが、12 月にはまと

まった漁獲がみられた。しかしながら、その後1月から3月までほとんど漁獲がみられなかった。

キハダ幼魚の漁獲量は91.6トン、漁獲金額は4,334千円で、平年のそれぞれ47%、60%であった。キハダ幼魚は、カツオの盛漁期であった5月および10月から12月にまとまって漁獲された。

シイラの漁獲量は5.4トン、漁獲金額は563千円で、前年度のそれぞれ41%、47%であった。シイラは年間を通じて漁獲がみられたものの、まとまって漁獲されることはなかった。

ビンナガの漁獲量は1.3トン、漁獲金額は451千円で、平年のそれぞれ34%、79%であった。

メバチおよびキハダは、1年間の漁獲が1トンを超えず、低調な漁獲であった。

以上のように、今年度の標本漁協における漁獲量はカツオおよびキハダが前年度を大きく上回り、ヨコワ、キハダ幼魚、メバチ、ビンナガおよびシイラは平年を下回る漁獲であった。

2. 浮魚礁における推計漁獲量および推計漁獲金額

標本船調査から推計された標本漁協の浮魚礁における年度別推計漁獲量を表1に、年度別推計漁獲金額を表2に示した。

カツオの推計漁獲量は167kg、推計漁獲金額は40千円で、平年(1995年から1998年までの平均値、以下同じ)のそれぞれ3.4%、1.5%であった。また、標本漁協全体のカツオの漁獲量および漁獲金額に占める浮魚礁での推計漁獲量および推計漁獲金額の比はそれぞれ0.1%、0.04%であった。

クロマグロ幼魚の推計漁獲量は1kg、推計漁獲金額は2千円で、平年のそれぞれ3.7%、4.7%であった。また、標本漁協全体のクロマグロ幼魚の漁獲量および漁獲金額との比はそれぞれ0.004%、0.01%であった。

キハダ幼魚の推計漁獲量は223kg、推計漁獲金額は117千円で、平年のそれぞれ6.3%、7.4%であった。また、標本漁協全体のキハダ幼魚の漁獲量および漁獲金額との比はそれぞれ2.3%、2.7%であった。

シイラの推計漁獲量は65kg、推計漁獲金額は5千円で、平年のそれぞれ2.9%、2.2%であった。また、標本漁協全体のシイラの漁獲量および漁獲金額との比はそれぞれ1.2%、0.85%であった。

メバチ、ビンナガおよびキハダについて、浮魚礁での漁獲はないと推計された。

平成11年度における浮魚礁での漁獲は、全ての魚種において極めて低調であった。特にカツオの北上期である春季には全く漁場形成がみられなかった。9~12月の秋季にはビンタを中心にカツオおよびシイラの浮魚礁での漁獲がみられたが、わずかであった。

表1 浮魚礁における年度別推計漁獲量(kg)

年度	カツオ	ヨコワ (クロマグロ幼魚)	ビンタ (キハダ幼魚)	ダルマ (メバチ)	トンボ (ビンナガ)	シイラ	キハダ	その他
1995	8,624	2,766	2,367	864				
1996	369	3,144	4,055			1,331		
1997	4	271	55			164		96
1998	10,656	10	7,618	886		7,298	84	85
1999	167	1	223			65		77
累計	19,820	6,192	14,317	1,750		8,858	84	258

表2 浮魚礁における年度別推計漁獲金額（円）

年度	カツオ	ヨコワ (クロマダコ幼魚)	ビンダ (キハダ幼魚)	ダルマ (メバチ)	トンボ (ビンナガ)	シイラ	キハダ	その他
1995	1,930,000	2,440,000	670,000	130,000				
1996	249,139	3,933,772	1,925,486			179,644		
1997	4,522	382,271	22,737			15,843		105,906
1998	8,352,869	18,078	3,712,453	498,347		676,162	62,970	49,609
1999	40,278	2,163	116,792			4,787		23,877
累計	10,576,808	6,776,284	6,447,468	628,347		876,436	62,970	179,392